

## 【絶滅危惧種展2024-6】マレーセンザンコウ

日本獣医生命科学大学附属博物館では本日8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催しています。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。2000年代に入り、世界で最も密売される哺乳類として世界中から注目を浴びたセンザンコウの1種です。

### 〈解説〉

マレーセンザンコウは鱗甲目センザンコウ科センザンコウ属の哺乳類の1種です。センザンコウの一番の特徴は、足の先とお腹側を除いて全身を硬い鱗に覆われていることで、危険が迫ると丸くなって体を守ります。マレーセンザンコウではありませんが、アフリカではライオンの生息する地域にも別種のセンザンコウが生息していて、ライオンが噛みついて鱗で体が守られている動画や写真などをネット上で見る事が出来ます。本種は尻尾が長く、木に登った時は尻尾を巻き付けて体を支えます。また四肢の先にある大きな爪も特徴で、その爪でアリ塚を壊して餌となるアリやシロアリを捕食します。

センザンコウ科には原生種として8種のセンザンコウがいますが、そのうちの半分の4種がアジアに、残り4種がアフリカに生息しており、マレーセンザンコウはブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、ベトナム等の東南アジアに分布しています。

IUCNは2019年の評価で本種を最も絶滅の危険性の高いCRにカテゴリーしました。絶滅の危機をもたらす最大要因は、食肉および漢方薬の原料としての乱獲です。20世紀に入ってから「捕り尽くされる恐れがある」と言われるほど乱獲され、世界的に注目を浴びました。

本種はベトナムと中国では肉が食用とされ、また鱗が漢方薬として取引されます。センザンコウ8種はワシントン条約の発効時は附属書IIに指定され、輸出国の許可があれば国際取引を行うことができたが、1995年からは附属書Iに指定され、ユキヒョウと同じく商業取引は禁止されています。

2024年9月5日の記事

それにもかかわらず、密猟による商業取引は非常に活発です。1978年から2000年の間に50万頭～100万頭のマレーセンザンコウが取引されていた可能性があるとする研究があり、また2001年から2018年の間にアジアで密売されたセンザンコウ類は28万頭に及び、そのうちのほとんどがマレーセンザンコウだとする研究もあります。センザンコウ科の原生8種はすべて個体数が急激に減少し、8種全てが絶滅危惧種となっていますので、マレーセンザンコウでないとしても、これだけの個体が密猟されていること自体が大きな問題です。

日本では、種の保存法の国際希少野生動植物種に指定され、個体の取引はもちろん、鱗と全体の皮などの部位や、それらの部位を使った製品などについても、取引と取引につながる販売・頒布目的の陳列・広告は原則として禁止されています。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、昨年度一般の方からご寄贈いただいたマレーセンザンコウの標本として、成獣と幼獣の2体を一緒に展示しています。産地や性別、年齢等の情報は残されていません。

マレーセンザンコウは現在は国内の飼育施設では飼育例がなく、今回展示した標本の中で唯一、国内では少なくとも生きた個体を見ることのできない種類です。当館でもこのミニ展示の期間限定での公開となりますので、ぜひこの機会に見にいらしてください。

※本学にご寄贈いただいた剥製については、大学における教育・研究目的で譲り受けしたものとして、環境省が定める種の保存法の所定の書式にて届け出を行っています。

(スタッフ 廣瀬)

〈展示資料詳細〉

[和名]マレーセンザンコウ(マライセンザンコウと表記されることもあります)

[学名]Manis javanica

[標本の種類]剥製

[サイズ](単位はmm)

成獣 幅:180、縦(体長):785、高さ:180

幼獣 幅:110、縦(体長):380、高さ:230(台座込み)

[レッドリスト評価]

CR(IUCNレッドリスト)

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

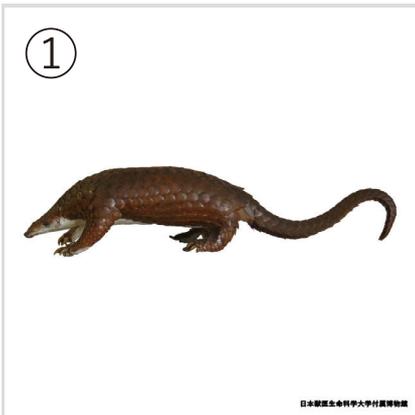
〈参考〉

- ・IUCNレッドリストのマレーセンザンコウの評価のページ(英語)

<https://www.iucnredlist.org/species/12763/123584856>

- ・最も密売される哺乳類、センザンコウの保護求める声：BBCニュースジャパン

<https://www.bbc.com/japanese/video-37470055>



- ① 展示標本⑥ マレーセンザンコウ成獣の剥製(横)
- ② マレーセンザンコウ成獣の顔のアップ。耳がとても小さいのも特徴の一つです。
- ③ マレーセンザンコウ成獣の尻尾のアップ。表面の鱗は5列に並んで尻尾の先まで続いています。
- ④ 展示標本⑥ マレーセンザンコウ幼獣の剥製(横)
- ⑤ 展示標本⑥ マレーセンザンコウ幼獣の剥製(正面) 幼獣は台座に固定されています。
- ⑥ マレーセンザンコウ幼獣の左前肢のアップ。大きな爪が目立ちます。肢部分は爪の生え際まですべて鱗で覆われています。

## 【お知らせ】オープンキャンパスの活動報告を掲載しました

大学公式サイト内の博物館ページに8月のオープンキャンパスの活動報告を掲載しました。当日の様子を写真つきで紹介しています。ぜひご覧ください。

■【活動報告】オープンキャンパスに合わせて博物館を開館しました

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20240830-01.html/>

■【活動日誌208】オープンキャンパスに合わせて博物館を開館しました

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid02f5rqnAmwD9D2S4eUZSPRa6LtAm7WtnqsK27jydbQiaYqYF5xK8aSbxPyqyJt1kZPI>

当日の様子速報はこちらからご覧いただけます

■8月17日(土)、18日(日)にオープンキャンパスを開催しました

<https://www.nvlu.ac.jp/news/20240817-01.html/>

オープンキャンパス全体のレポートはこちらに掲載されています

## 【絶滅危惧種展2024-7】ライチョウ

日本獣医生命科学大学附属博物館では本日8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催しています。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。今回は本学獣医学部獣医保健看護学科の病態病理学研究分野(以下、病態病理学研究分野とします)ご所蔵の剥製、ライチョウについてご紹介します。

### 〈解説〉

ライチョウはキジ目キジ科ライチョウ属の鳥類の1種です。オス・メスともに冬と夏では羽の色が全く異なり、冬に真っ白の羽毛で全身を覆われることが本種の最大の特徴です。ちなみにライチョウ(雷鳥)の名前の由来は雷の鳴るような悪天候時には天敵の活動が抑えられるためによく見られるためだと言われています。

世界的にはユーラシア大陸と北アメリカ大陸の北極海沿岸、ヨーロッパとアジアの一部の高山帯に広く分布しており、日本はその分布の南限です。

IUCNは2016年の評価で本種を絶滅の危険性がほぼないLCにカテゴリーしています。生息域が広いため個体数は多いですが、緩やかに個体数は減少していると評価されています。

日本には、ライチョウの亜種(*Lagopus muta japonica*)が生息しており、環境省は環境省レッドリスト2020においてENにカテゴリーしています。日本では本州の山岳地帯の高山帯にのみ生息し、一部の生息地ではすでに地域絶滅し、現在は頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプスに生息しています。古来より霊鳥として敬われ、江戸時代まではほとんど人による捕獲はなかったと考えられていますが、明治時代の乱獲により個体数が減少し、1923年(大正12年)には国の特別天然記念物に指定されました。

元々本州の山岳地帯の高山帯にしか生息していなかったため個体数は少なく、1980年代までの調査で3,000羽ほどとされていましたが、2000年代に入ってから2,000羽弱と推定されています。1993年の種の保存法施行時から国内希少野生動植物種に指定され、2012年から種の保存法に基づくライチョウ保護増殖事業計画が策定、実施されています。

2024年9月11日の記事

現在の日本においてライチョウは、捕食者となり得る種の分布拡大による影響(キツネ、カラス等)や山岳環境の汚染に起因する感染症の原因菌等の侵入、気候変動による営巣環境・植生等への影響など複数の危機要因にさらされています。この標本を所蔵する病態病理学研究分野ではライチョウ保護増殖事業計画に協力し、野生復帰を目指して飼育下繁殖をしている個体が死亡した際の病理学的解析・研究を行っています。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、乗鞍岳産のライチョウのオス成鳥の剥製を展示しています。夏羽なので白と黒の2色の羽が生えています。

ライチョウは国内の複数の動物園や飼育施設にて飼育されているため、どなたでも見ることが出来ます。

(スタッフ 廣瀬)

〈展示資料詳細〉

[和名]ライチョウ

[学名]Lagopus muta japonica

[標本の種類]剥製

[レッドリスト評価]

LC(IUCNレッドリスト)

EN(環境省レッドリスト2020)

CR(2018山梨県レッドリスト)

EN(長野県版レッドリスト(動物編)2015)

VU(静岡県版 鳥類レッドリスト 2020)

CR+EN(レッドデータブックにいがた(2001年)、富山県の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブックとやま2012、岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)改訂版-岐阜県レッドリスト(動物編)改訂版-、いしかわレッドデータブック2020動物編)

※IUCNの評価は種としてのライチョウ(Lagopus muta)を対象としたもので、日本に生息する亜種ライチョウ(Lagopus muta japonica)の評価は行われていません。

※「レッドデータブックにいがた」ほかでは、CRとENを分けずに合わせて絶滅危惧I類とするカテゴリーを用いています。

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

2024年9月11日の記事

〈参考〉

・ライチョウの保護増殖事業計画

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/raicho.html>

・ライチョウ - 文化遺産オンライン

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/162818>



- ① 展示標本⑦ ライチョウの剥製(横)
- ② 展示標本⑦ ライチョウの剥製(正面)
- ③ 展示標本⑦ ライチョウの剥製(後ろ)
- ④ 左脚。夏羽の時期でも指と指の間にも羽毛がびっしり生えています。
- ⑤ 顔のアップ。ライチョウの目の上にはオス・メス両方に赤い肉冠(にくかん)があります。

## 【活動日誌210】学芸員課程受講生の見学実習を受け入れました

今年度に入ってから、本学で学芸員課程を受講する4年生の実務実習についてご報告してきましたが、8月末と9月頭に3年生の受講生による見学実習も実施しました。

見学実習では昨年度と同じく、一号棟内の展示室や保管室を実際に見学してもらい、博物館が普段資料管理のために行っている実際の作業や、資料管理上の工夫などを伝えました。実習ではIPM(Integrated Pest Management: 総合的有害生物管理)の一環として実施しているトラップ調査の粘着トラップの設置も体験してもらい、また合わせて、通常は展示せずに保管室で管理している旧麻布区役所庁舎と一号棟の棟札や、学内で使われていた古い遠心分離機などの資料についても実物を見てもらいました。

見学実習は受講生約20名を一組7人程度に分けて実施しています。今年度は特別に2年生にも博物館の見学実習を行う予定ですので、またFacebookでご紹介します。

(スタッフ 廣瀬)

#博物館実習 #日本獣医生命科学大学 #博物館



- ① 見学実習で歴史系展示室の解説を行っている様子。実習生は熱心にメモを取りながら見学していました。
- ② 自然系展示室のミニ展示エリアで展示しているコウノトリ専用製造したアクリルケースについて解説している様子。
- ③ 学生が組み立て、設置した粘着トラップ



- ④ 紙資料の脱酸素処理についての解説時に、処理中のガスバリア袋を学生が観察している様子。
- ⑤ 一号棟の棟札について説明している様子。

## 【絶滅危惧種展2024-8】アマミノクロウサギ

日本獣医生命科学大学附属博物館では本日8月17日からミニ展示「絶滅危惧種展2024」を開催しています。ミニ展示にあわせて、facebookを活用して展示資料の詳細情報をご案内します。今回も前回に引き続き、本学獣医学部獣医保健看護学科の病態病理学研究分野(以下、病態病理学研究分野とします)ご所蔵の剥製、アマミノクロウサギについてご紹介します。

### 〈解説〉

アマミノクロウサギは兔形目ウサギ科アマミノクロウサギ属の哺乳類の1種です。背中側の毛は黒や茶褐色、腹側は灰白色で、耳が短いことが特徴です。また、足の爪がとても発達していて、夜行性のアマミノクロウサギが日中休むためや子育てするために使う巣穴を掘るのに適しています。

アマミノクロウサギは日本にしか生息していない日本固有種で、国内でも奄美大島と徳之島にのみ生息しています。

IUCNは2016年の評価で本種をENにカテゴリーしており、危機要因は外来種のマングースによる捕食と、人間による生息地の開発によるものとしています。

日本でも、環境省レッドリスト2020においてENにカテゴリーしています。珍しいウサギとして1921年(大正10年)には天然記念物に、1963年には特別天然記念物に指定されていましたが、もともと生息地が狭いため個体数は多くなく、生息地である森林の開発や、人間がペットとして島に持ち込んだノネコ・野犬に加えて外来種のファイリマングースの捕食によって個体数が減少していました。

その後2004年に種の保存法の国内希少野生動植物種に指定され、また同年、種の保存法に基づくアマミノクロウサギ保護増殖事業計画が策定、実施され、現在も保護増殖事業計画が実施されています。

保護増殖事業計画によって外来生物法の特定外来生物として指定されているファイリマングースの駆除が進み、2018年に捕獲された1頭を最後にその後は確認されておらず、今月環境省はマングースの根絶を発表しました。ファイリマングースの駆除が進むにつれて、アマミノクロウサギの個体数は増加していると考えられています。

2024年9月19日の記事

この標本を所蔵する病態病理学研究分野では奄美群島の動物病院の先生方などからのご依頼により、アマミノクロウサギやアマミトゲネズミなどの稀少な野生動物が死亡しているのが見つかった場合や、傷病で保護後に治療の甲斐なく死亡した場合に、その死因について病理学的に調査しています。

今回の「絶滅危惧種展2024」では、上記の研究の一環で入手した奄美大島産のアマミノクロウサギのメス成獣の剥製を展示しています。

アマミノクロウサギは現在は国内で唯一、鹿児島県の鹿児島市平川動物公園にて展示されています。

(スタッフ 廣瀬)

〈展示資料詳細〉

[和名]アマミノクロウサギ

[学名]Pentalagus furnessi

[標本の種類]剥製

[レッドリスト評価]

EN(IUCNレッドリスト)

EN(環境省レッドリスト2020)

CR+EN(鹿児島県レッドリスト動物(平成27年度改訂))

※鹿児島県レッドリストではCRとENを分けずに合わせて絶滅危惧Ⅰ類とするカテゴリーを用いています。

#絶滅危惧種 #日本獣医生命科学大学 #博物館

〈参考〉

・アマミノクロウサギの保護増殖事業計画

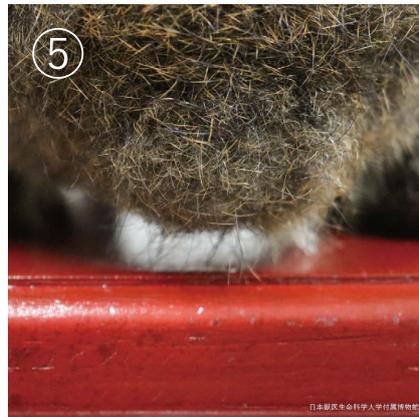
<https://www.env.go.jp/.../hogo-zoushoku/amaminokurousagi.html>

・アマミノクロウサギ - 文化遺産オンライン

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/140127>

・マングース(奄美野生生物保護センター)

<https://kyushu.env.go.jp/okinawa/awcc/mongoose.html>



- ① 展示標本⑧ アマミノクロウサギの剥製(横)
- ② 展示標本⑧ アマミノクロウサギの剥製(正面)
- ③ 展示標本⑧ アマミノクロウサギの剥製(後ろ)
- ④ 右前脚の爪。日本にいる他のウサギと比べてとても爪が発達しています。
- ⑤ 尻尾。とても小さく、ほとんど目立ちません。

## 【活動日誌211】団体見学を受け入れました

当館では団体の皆様のご見学を受け入れています。8月には、放課後等デイサービスウイング稲城の皆様が3回に分けて来館されました。

野生動物の剥製を展示している自然系展示室は各回ともに好評で、子どもたちは普段見ることができない動物たちの姿に目を輝かせていました。動物について興味があるお子さんは「コウライキジとキジは交雑するんだよ」と、我々も驚くような専門知識を披露してくれました。また、3回目の見学の際にはミニ展示「絶滅危惧種展2024」が始まっていたため、コウノトリやセンザンコウなどの貴重な動物たちの標本を見ていただくことができました。

団体見学の場合、来館希望日の3週間前までのお問い合わせをお願いしています。都合により開館日であっても団体見学をお受けできない場合がございますので、団体見学をご希望の方はまずは当館までご相談ください。

(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館

### ■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

団体見学の詳細は「来館案内」ページをご参照ください



- ① 自然系展示室の見学の様子
- ② キリン「長次郎」の骨格標本も見ていただきました

## 【お知らせ】保護者面談会に併せた特別開館について

2024年10月5日(土)に開催される「令和6年度保護者面談会」に併せ、博物館を特別開館いたします。保護者面談会にご参加の方は事前予約なしで博物館の見学が可能です。見学をご希望の方は直接展示室までお越しください。

〈見学可能時間〉

- ・開館 10:00
- ・閉館 16:00(物販終了15:30)

〈見学時のお願い〉

10月5日は、都合により保護者面談会に参加される方のみ見学を受け入れております。保護者面談会に参加されない一般の方は見学をご遠慮いただきます。

各展示室の入口には、入館記録用のボードを設置しています。ご見学の際は記録用のシールをボードに貼るようお願いいたします。

翌日開催されるオープンキャンパスの準備のため、一部の館内表示が変更となっております。

以上、あらかじめご了承ください、ご協力をよろしくお願いいたします。

### ■令和6年度保護者面談会開催のお知らせ

<https://www.nvlu.ac.jp/news/20240822-01.html/>

保護者面談会の詳細情報はこちらでご確認ください

### ■キャンパスマップ

<https://www.nvlu.ac.jp/campusmap/campusmap.html/>

博物館の場所はこちらでご確認ください(「1号棟(本館)」の中に展示室がございます)

### ■博物館

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004.html/>

当日御覧いただける展示の内容など、博物館の詳細情報はこちらでご確認ください

### ■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

団体見学の詳細は「来館案内」ページをご参照ください

## 【活動日誌212】奄美展準備

当館は現在、初の「特別展」の開催に向けた準備を進めています。これまでの「企画展」は博物館が主体となって実施してきましたが、「特別展」は学内の研究室と連携して実施します。第一回目の特別展は、本学の研究室である獣医学部獣医保健看護学科の病態病理学研究分野(以下、病態病理学研究分野とします)との共催で、奄美をテーマにし、11月の大学祭の開始とともに開催する予定となっています。

先日は、博物館と病態病理学研究分野、また展示に協力いただく本学の獣医学部獣医学科獣医寄生虫学研究室の常盤先生と、展示企画の具体化、準備のスケジュール等についてミーティングを行いました。

また別の日には同じく特別展にご協力をいただく奄美野生動物医学センターの新屋惣さんが、病態病理学研究分野の関係者の方と博物館に来館され、特別展に提供いただいた動画の公開方法等についての打ち合わせも行いました。

今後は11月の特別展開催に向けてパネルの制作や、展示物の準備、広報等も本格化します。

皆様に御覧いただけるようになるまで、これからも日々準備を進めていきますので、どうぞ楽しみに。

(スタッフ 廣瀬)

#奄美 #日本獣医生命科学大学 #博物館



- ① 事務室にて病態病理分野の関係者、常盤先生と博物館での打ち合わせの様子
- ② 奄美野生動物医学センターの新屋惣さん、獣医医療開発株式会社の佐々木美緒さん(本学獣医保健看護学科卒業生)が来館され、ミニ展示「絶滅危惧種展2024」で展示しているアマミノクロウサギの剥製を見学している様子。
- ③ 関係者で展示の内容についてミーティングしている様子。